

研修機関	金沢赤十字病院
研修期間	平成16年10月4日～12月3日
所属・氏名	石川県立七尾農業高等学校 春成 寿子

## I 研修目的

- ・医療の現状と課題について知識を深めるとともに、介護や看護に関する実践技術を身に付ける。
- ・インターンシップや授業などで生徒が病院等を訪問する際の、計画立案や実施のノウハウを身に付ける。
- ・学校を離れ多くの人とふれあう中で、自分自身の資質向上を図るとともに、研修成果を生徒に還元する。

## II 研修内容

### 1 オリエンテーション

院長・事務部長・看護部長面談、施設見学、総務課説明、ビデオ視聴

### 2 医療社会事業部

- ① お年寄り介護相談センター（オリエンテーション、伏見台サロン・家庭訪問同行など）
- ② 医療相談室（ソーシャルワーカー業務について、カンファレンス同行など）
- ③ 居宅介護支援センター（ケアマネージャー業務・介護保険・ケアプランなどについて）
- ④ ボランティア（ボランティア受入について、巡回図書・チューリップの球根植えなど）
- ⑤ 健康講座（喘息・肝臓病に関する健康講座に参加）

### 3 看護部

- ① 健診センター・内視鏡センター・透析センター・手術室・生活指導室等見学
- ② 訪問看護ステーション（業務内容について、訪問看護同行）
- ③ 病棟業務（外科・眼科病棟、回復期リハビリ病棟、婦人科病棟見学および看護補助）

### 4 医事課

- ① 地域医療連携室（病診連携について）
- ② 病歴管理室（診療録整理・保管・貸出）
- ③ 医事課（レセプト作成・診療費支払・自賠責・救急・生活保護・助産制度等について）
- ④ 受付（外部委託業務について、診療の流れ、カルテ管理）

### 5 栄養課

- ① 栄養指導（集団・個人、生活指導室）
- ② 病院給食（献立作成、個人対応、温冷配膳車、食事時間、特殊食品、選択メニュー）
- ③ その他（食材の発注・保管・在庫管理、衛生管理、資格取得）

### 6 リハビリテーション科

- ① 理学療法（運動療法、物理療法などの見学）
- ② 作業療法（日常生活動作訓練などの見学）
- ③ 訪問リハビリ（訪問リハビリ同行）
- ④ 診療見学（リハビリ専門医による診療・検査等の見学）
- ⑤ デイケア（利用者のお迎え、リハビリ・レクレーション見学など）

## 7 薬剤部

- ① 病棟業務同行
- ② 薬剤師の業務について

## 8 総務課・経理課・企画課

- ① 文書受付処理、資料整理などの補助
- ② 病院の広報活動と広告について
- ③ 医療廃棄物の処理、中央監視室の業務について

## 9 各種講習会・研修会・教室への参加

- ① 家庭看護法講習会（全8回）
- ② 院内研修会「いま、なぜ医療連携か」
- ③ 糖尿病教室、心臓・高血圧教室、肝臓病教室

## 10 その他

- ① 金沢市大規模救急救助訓練（辰巳ダム周辺）見学
- ② 日直業務見学
- ③ ボランティア意見交換会参加

## III 研修成果

### 1 徹底した危機管理体制

まず、病院は人の命を預かる場所であることを強く感じた。それでも、人がすることにはミスは付き物である。小さなミスを見逃せば、大きな事故＝医療事故につながる。

金沢赤十字病院では万が一にも起こってはならない医療事故を防ぐために「医療事故防止マニュアル」を作成し、MRM委員会が設置されている。院内では「針刺し事故の防止」や「アルコール手洗いの励行」、「コンピュータの誤操作防止」などを謳った張り紙がよく目立つところに貼られていたり、薬品を扱うときには2人以上で3回以上の確認を行うなど、徹底してミスや事故を防ぐ努力がされていた。中でも最も見習いたいと思ったのは、各職員が「インシデントレポート」を提出するシステムである。提出してもミスの責任は問われず、個人のミスが組織的なシステム見直しのために生かされていた。

また、非常時の登院体制や食料の備蓄、各種防災訓練に救護班を派遣したりもしている。実際に金沢市主催の訓練にも同行させていただき、医師や看護師がきびきびと働く姿を間近で見ることができた。11月には新潟中越地震が発生し、病院からも医師1名・看護師3名・主事2名からなる救護班3班と「こころのケア」スタッフが現地に派遣されていた。

ミスや事故が起こらないようにする対策と、何かが起きたときに迅速に対応できる体制づくりは学校でもとても重要であると再認識することができた。

### 2 赤十字の理念と病院経営

赤十字は「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」の七原則に基づいて世界で活動している。もちろん金沢赤十字病院もその一員ではあるのだが、経営は独立採算性だという。地域の方が病院に持つイメージは他の病院とは違うようで、赤十字独自の活動を行いながら病院経営を行う難しさを感じた。

今、病院は医療制度改革により機能分化が求められている。地域医療連携を進めなければ診療報酬が減少することにつながり、どの病院もかなりの経営努力が必要となっている。赤十字病院では開放病床の設置により紹介率を上げる、クリニカルパスの作成により在院日数を短縮するなど様々な努力をされていた。また、毎日病床利用率などのデータが院内LANで確認で

き、職員の共通理解の下に改革が行われていた。

高校も学区制が廃止され、いかに特色ある学校づくりを行い、生徒に選ばれる学校になるかが課題となっている。教員は直接利益を上げる職業ではないが、全職員が共通理解を持って学校運営に取り組む必要があると感じた。

### 3 学び続ける姿勢

今回の研修では、医師・看護師をはじめとする様々な職種の方から話を伺ったり、実際に研修会や学習会に参加させていただいた。勤務時間が終わってから、職員全体で医療連携に関する研修会を開いたり、部署ごとに持ち回りで研究会や学習会を熱心に行っていた。個人的に勉強して、資格取得などに励んでいる人も多くいた。中でも糖尿病療養指導士・認定看護師の資格を取得し、糖尿病患者さんに対する生活指導をされている看護師さんが、「患者さんにもっとわかりやすく、上手に話をするために教育学や心理学も勉強したい」とおっしゃっていたのが印象に残っている。

よりよい医療を提供するために絶え間なく努力されている姿は、自分を振り返る良い機会となった。常に最新の正確な情報を提供できるように、人として教員として向上できるよう学び続けなければならない。

### 4 人と接する心構え

家庭看護法講習、糖尿病教室、健康講座など習う側に立つ機会をたくさんいただいた。学校では研究授業の時くらいしか他の先生の授業を見る機会はないので、話し方・ホワイトボードの使い方・資料の提示法などが大変参考になった。

また、ソーシャルワーカーの業務やベッドサイドでの薬剤師による薬剤指導を見学させていただいたり、お話を聞かせていただく中で、面談や進路指導に生かしたいと思うことがいくつもあった。

①答えを出すのではなく、情報を提示し選択肢を増やす。

②援助を行うのに必要なことのみを聞く。

③相手を尊重し、傾聴すること。話し方は相手よりも少し丁寧に。

体調を崩し不安なときに接する病院関係者の存在はとても大きい。わたし達教員も生徒が悩んだり苦しんでいるときに、寄り添い、一緒に解決の方法を探すことができるよう心がけたい。

### 5 協力することの大切さ

研修初日に院長から、「病院は医師だけでなく、様々な職業の人が協力して病気の治療にあたる場所である。その様子をよく見て欲しい」と言われて研修をスタートした。医師の治療、「固定チームナーシング」による看護、理学療法・作業療法士によるリハビリ、ソーシャルワーカーによる援助、薬剤師による服薬指導、栄養士による栄養指導など、一人の患者さんが病気を治し退院するまでには本当にたくさんの方が関わっている。患者さん本人や家族に治療方針を説明し、納得してもらった上で、本人と家族も交えた治療が行われる。特に回復期リハビリ病棟は、頻回にカンファレンスをひらいて情報を共有し、リハビリに費やされる時間も長い。その患者さんのゴールに向けて、家族も参加しながらリハビリが行われている様子を見て、学校でも一人の生徒に対して担任だけが関わるのではなく、職員・家族が協力して生徒の抱える問題を解決する協力体制が築ければと思った。

### 6 記録・情報管理の重要性

診療録（カルテ）には患者さんの情報がすべて詰まっており、医師だけでなく、関係するすべての人が情報を記入していく。記載は問題志向型システムで行われ、退院後病歴管理室で診療情報管理士によって整理・登録・分類が行われて保管される。その後研究や教育のために貸

し出されたり、公衆衛生の統計にデータが利用されるほか、開示請求への対応や法的防衛の意味もあるという。他にも処方箋や、指導記録用紙など大量の複写用紙があり、各部署できちんと保存されている。今後オーダリングシステムや電子カルテの導入で紙の使用量は減ると言われていたが、保管方法や分類方法など見習うべき点が多かった。

#### 7 福祉・看護・保育・食生活に関連して

免許講習会で取得した福祉はもちろん、家庭科の授業でも「高齢者の生活と福祉」という分野があり、今回の家庭看護法講習をはじめ院内で得たものは、実習はもちろん講義でも生かせる部分が多くあった。また、保育分野では産婦人科病棟で助産師さんによる沐浴指導や授乳指導を見学したり、出産に立ち会わせていただくことができた。先生からは「生徒の実習などで協力できることがあれば言ってください」という言葉もいただいた。栄養課で学んだ献立や衛生管理の知識、膨大な資料も貴重な財産になった。このすばらしい経験を生かした授業づくりをしていきたい。

#### IV 今後の課題

2ヶ月間の研修で紙面では書ききれないほど多くの貴重な経験をさせていただいた。アルバイトやボランティア以外で学校以外の職場に行ったのも、これほど長い間学校を離れて研修する機会をいただいたのも初めてのことで、毎日が新鮮で新しく知ることばかりだった。院内では、職員の方々だけでなく、たくさんの患者さんにも声をかけていただいたり、お話をさせていただくことができた。院外でも訪問に同行していろいろな方とお会いすることができた。本当にたくさんの人と出会い、「何のために、どういう制度でここに来たか」を説明するたびに、自分で研修の目的を振り返っていたように思う。

今まで進路指導やインターンシップを実施するときなどに、様々な職業について説明はしていたが、メディアから得た知識だけで話していた。これから医療や福祉に関する職業に関しては、実体験を基に話すことができるが、他の職業についても上辺だけにならないよう学んでいきたい。それ以上に生徒にとっても実際に職場を見る・体験することがどれだけ大きな意味を持つことかも感じられた。本校でもインターンシップを実施しているが、実習先の企業はどこも忙しい業務の中、快く生徒を受け入れてくださっている。実習先の決定や生徒が何を目標にして職場に行くか、実習内容やそれによって得られる効果についてもよく考え、実習先の担当者とよく打ち合わせをして実施する必要がある。

院内には週2回ボランティアさんが図書の貸出に病棟を巡回していた。一緒に巡回させていただいたときに、本を楽しみにしている患者さんの多さに驚いた。図書は職員やボランティアさんの寄付などが中心で、一部公立図書館の廃棄本もあるが、蔵書数は充分でないと聞いた。学校図書館の廃棄本の有効活用先の一つとして考えられないだろうか。

他にも院内にはデイケアなど様々な場所でボランティアさんが活躍している。ボランティア担当の方は「もっと若い人にも参加して欲しい」とおっしゃっていた。学校でもボランティアは推進しているが、もう一步踏み込んでボランティア活動先の紹介なども行っていくべきなのかもしれない。

今後は、この経験を日々の教育活動に生かすとともに、自分のためにも学び続けて行きたい。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えてくださった石川県教育委員会、学校長をはじめとする教職員の皆様、そして何よりもお忙しい中、わがままな希望をほとんど網羅した研修計画を作成し、何の資格もないわたしを受け入れてくださった金沢赤十字病院の皆様に感謝いたします。2ヶ月間本当にありがとうございました。